



学校便り 1月号

かけはし

薩摩川内市立里小学校 薩摩川内市里町里 1601 TEL 09969-3-2008
発行 令和6年1月19日 責任者 校長 永野 俊也

学校HP



学校ブログ



里周辺海水温
20℃(1/2)



飛竜乗雲の年へ

災害とボランティアから学んだこと

校長 永野 俊也

令和6年がスタートしました。今年は辰年！辰年は、竜が空高く上っていくイメージから世の中では上昇気流が生じやすい年と言われています。株の世界では「辰巳天井」という言葉があり、景気がよくなることが多いそうです。また、飛竜乗雲とは、竜が雲に乗って空に舞い上がるという意味から、時代の流れに乗って、人が才能を発揮するたとえに使われます。子供たちの才能がいろいろな分野で花開くという年であるといいなと思います。

年明け1月1日16:00過ぎ、能登半島地震が発生しました。その寸前まで私は西の浜で泳いでいたから、海を急いで引き上げて情報収集を行いました。日本海沿岸では津波警報が大津波警報に切り替わり、刻々と状況が伝わりだします。石川県能登地方の地震の概況は次の通りです。

16:06 震度5強の前震 その4分後**震度7** (テレビなどの家財道具が横に飛んでくる激しい揺れ) の**本震**に襲われ、その後も震度5クラスの余震が何回も襲います。気象庁は**16:12** 津波警報を発令し、その後**16:22** 大津波警報に切り替えます。ただ震源に近い輪島港では、5mと思われる津波に襲われた後(**16:21** 到達)でした。海岸付近の輪島朝市付近では火災が発生、しかしながら津波警報発令中のため初期消火がうまく行えない上、道路が寸断されており**23:00** 段階でも消火に当たれるポンプ車は4台のみだったそうです。また、最大震度7を記録した志賀町には、志賀原子力発電所があります。幸い外部に影響をもたらす大きな被害はなかったようですが、ネット上では誤情報が錯綜していました…。救助活動を阻む度重なる余震や、冷たい冬の気候によって震災後も多くの方が亡くなりました。ご冥福をお祈り申し上げるとともに、被災された方々が1日も早く平穏を取り戻せるよう願う次第です。

こういった震災が、今ここで起こった時、何ができるだろう？ どう動けばよいのだろう？ 学校は多くの命を預かる場ですから考えを巡らせます。昨年度の夏休み、長期の研修で熊本の大学に通った際に、熊本地震の状況やボランティア活動の意義など、学生たちと共に学びました。熊本地震の際、避難所に指定されていなかった大学構内に、指定避難所に入りきれない避難民が押し寄せ、大学構内に臨時の避難所を設置した時の状況。混乱する避難所を学生たちと担当教官が運営し、秩序を取り戻していくプロセス。そしてボランティアに疲弊していく学生たちを見て、「学生たちを引き上げよう」と教官が判断してから、避難民による自治的な避難所の運営を軌道に載せていく姿など、リーダーとして非常時に次々に求められる判断、決断の重さに身震いを感じる事例からの学びでした。

能登半島地震の翌日、羽田空港では日航機と海保機の衝突事故が発生しました。その際、日航機の搭乗者に一人の死者も出なかった事に注目が集まりました。滑走路上でコントロール不能となり停止したものの、火災がどんどん広がる状況。CAとの連絡も十分取れない中、8つある脱出口の中、使えるのは前2つと、最後部の1つのみ。しかも最後部の脱出口は、高さから使えるかギリギリのところ CAは独自の判断で脱出シューターを解放し、避難を開始します。煙が充満し始めた機内で、機長は副機長と共に取り残された乗客がいないか確認し、副機長が1名を発見。前の脱出口から避難。機長は最後尾まで行き、全ての乗客が避難し終えたことを確認し、後部脱出口から最後に避難しています。乗客が客室乗務員の的確な指示に従い、手荷物を持たず秩序だてて行動できたことが全員の命を救ったとも言えます。

年が明けてすぐに起こった災害や事故を、私たちは他人事とせず「命を守る」ために学び考えなければいけないと思いました。家庭でも話題として、日頃から備えてもらえればと思います。

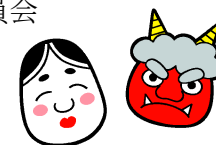
3・4年おにぎり作り

12月9日(土)は、3・4年生が育てたお米でおにぎり作りを行いました。5月から米作りの指導をしてくださった小川豊博さんを講師に迎え、おいしいご飯の炊き方を教わりました。ご飯が炊きあがると、子供たちは楽しそうにおにぎりを作り、収穫の喜びを感じながら食べることができました。また、くぼたさんから差し入れていただいたきびなごと合わせてちょっとしたお昼ごはんとなりました。



2月行事

- 1日(木) 小中わくわく座談会
中学校入学説明会(6年)
- 6日(火) 生活リズム指導週間(~12日)
- 8日(木) かのこゆり号来校
- 10日(土) 土曜授業
- 11日(日) 建国記念日
- 12日(月) 振替休日
- 14日(水) クラブ活動(3年生見学)
- 21日(水) 学校保健委員会
- 22日(木) 磯餅焼き
- 23日(金) 天皇誕生日
- 29日(木) 学級PTA



※ 上記日程は予定なので、今後変更の可能性もあります。

大谷選手からのグローブ届きました!

ニュース等で話題になった大谷選手からの寄贈のグローブが、本校にも届きました。

昼休みなどに使用して野球に興味をもってもらえたらよいと思います。



赤い羽根募金

総務委員会のみなさんが、朝、児童玄関前で呼びかけて集めた赤い羽根募金のお金を、社会福祉協議会の方に、お渡ししました。

総額は6,269円でした。御協力ありがとうございました。



空き瓶回収

今年度の空き瓶回収の収益金額はちょうど30,000円となりました。(半額は塩田酒造さんからの寄付となります) 今後有意義に活用させていただきます。御協力、有り難うございました。

今月の付録

海との共生 領島の海のお話

 きびなごのひみつ (その4)



“えっ きびなご がない?!” 先月号の付録は、気になるワードで終わりました。このシリーズの本題は、ここにあります。通常、市場でどろ箱1杯1万円前後で取引されていた きびなご が、現在3~4万円となり、もはや高級魚！ 庶民のお魚ではなくなってきつつあります。それだけ不漁が続いているのです。

それは、なぜ？

この疑問を解き明かしたくて、様々な書籍やネットで調べ始めたのですが…。調べてみて初めて、きびなご 自体の情報が思ったより少ないことがわかりました。「これは、足でかせぐしかないか…」と、まずは鹿児島水族館いおワールドを訪ね、学芸員の方に問い合わせをしてみました。ところが… 水族館では、「きびなごの 専門家はいないので詳しいことはわからない。」という回答でした。そもそも きびなご の寿命は1年から半年と短い上に、ほかの魚と一緒に水槽入ると、たいてい食べられてしまうので、餌としてしか扱っていないとのことでした…。

「確かに、水族館で きびなご 泳いでるの見たことないよね…」と思いました。次の手、「そうだ鹿児島水産高校へ電話をかけてみよう！」水産高校の福島校長先生は、高校の頃の部活動（音楽部）で一つ下の後輩です。水産高校は基本転勤がほとんどないので、水産高校卒業生のみなさんにとっては懐かしい名前なのではないでしょうか？ ただ、ここも教育機関なので詳しいことはわかりませんでした…。

「これはもう、県の水産試験場へ問い合わせるしかない。」と思い連絡を取り、昨年12月18日そこで2時間勉強してきました。その内容については、次号にまとめたいと思います。（つづく）

さて、左の絵ですが、今まで海の中で見てきた きびなご の姿で1番印象に残った場面を描いてみました。

10 年程前、種子島の海の様子になります。この日は、ダイバーの研修で一人ボンベを背負って、200 m程沖合のポイント（中瀬）まで泳いで海面を移動しました。途中、たくさんの きびなごの群れが寄ってきて、海の中の様子が見えなくなるぐらいでした。その群れを引き連れて泳ぎ、ポイント到着後、きびなごの群れの中を水深20mまで潜行しました。

海底から見上げる きびなごの群れは向きを替える度に、銀色の光を放ちます。そして海面を透かしてゆらいで見える太陽や、私が吐く度にキラキラと光りながら上がっていく空気の泡と重なって、思わず引き込まれ見とれてしまう光景でした。

しばらくして、本来の目的である希少種のはぜの観察を海底で始めましたが、海が暗くなり辺りの様子が一変します。ん？ と思って見上げてみると きびなごの群れがさらに濃くなり、太陽の光を遮っているのです。そしてその周りをカンパチとツムブリの群れが回り、その群れの底を、アオヤガラの群れが泳ぎ、きびなごを岩場の方へ追い込んでいるのではないですか！ そして、きびなごの動きが限界点に達したとき、カンパチとツムブリは、次々と きびなごの群れの中に飛び込み始めました。その瞬間は、まるで矢を放つ時のように、水中でも“シュ！”という音のはっきりと響きます。底の方では、こぼれてきた きびなごの残骸を、アオヤガラがパクついていました。

海の中の生存競争の激しさ

そんなドラマをリアルに体験した思い出です（説明上、きびなごを針のように描きましたが、実際は黒い渦巻のような塊に見えました）。

確かこの年の冬、屋久島で雪山訓練を終えて、麓の温泉に入っていると、地元の漁師さんが嬉しそうに、「今日は（きびなごが）50箱あがった。」と話をしていました。そういうふうに、またなればいいなと思います。